北欧と日本の公共図書館におけるイベントを通じた市民へのエンパワメント

富田有美

近年，世界中で移民問題や経済格差の拡大による社会的分断が進行する中で，民主主義の強化のために，自律した市民の育成が重要視されている。このような社会の要請に応じて，北欧の公共図書館では，21 世紀の公共図書館における四空間モデルや図書館法の改正の中で自律した市民の育成を行うエンパワメントの役割が強調されている。図書館イベントは，この役割を果たす中心的なサービスの 1 つとして，市民の多様なニーズに応えることができると考えられる。本研究の目的は，北欧と日本の公共図書館を事例として，公共図書館で行われるイベントを通じた市民へのエンパワメントを明らかにしたうえで，国際比較することで各国のエンパワメントの特徴を明らかにすることである。

研究方法は，ヘルシンキ中央図書館オーディ，東京都江東区立図書館（地域館を含む），神奈川県海老名市立中央図書館の 3 館を対象とした事例分析である。これらの図書館で開催されたイベントのデータを収集したうえで，オープンコーディングをおこなった。収集したデータはそれぞれオーディ 1,526 件，江東区立図書館 1,382 件，海老名市立中央図書館 450 件である。このデータを対象に付与したコードを四空間モデルの空間カテゴリに分類し，さらに同モデルにおいてエンパワメントを支持するラーニングとミーティングのカテゴリに分類されたコードについては，エンパワメントに関連するものとして分析した。

分析の結果，オーディでは，YA・成人向けイベントに，「就労支援」，「対話の創出」，「市民同士の交流」，「社会的弱者支援」，「デジタルスキル習得支援」，「デジタルリテラシーの育成」，「言語取得支援」，「課題解決のための情報提供」，こども向けイベントに，「思考力向上」，「居場所の提供」，「政治への関心を養う」，「社会的弱者支援」，「言語習得支援」，「教養学習支援」の役割がみられた。日本の公共図書館 2 館では，YA・成人向けイベントに，「言語習得支援」，「課題解決のための情報提供」，こども向けイベントに，「言語学習支援」，「興味関心に基づく学びの場の提供」，「教養学習支援」の役割がみられた。

これらの結果から，北欧の公共図書館では，イベントを通じた市民へのエンパワメントとして，ポジティブなエンパワメントとセーフティネット的エンパワメントの２つの側面から自律的市民の育成を実践していることが解明された。また、イベントを通じた市民へのエンパワメントは，コレクションによる情報提供が前提に存在し，イベントは主に能力や自信を高める機会を提供することで市民へのエンパワメントを拡張していた。一方で，日本の公共図書館には，ポジティブなエンパワメントがみられたが，セーフティネット的エンパワメントは想定されていなかった。また、ポジティブなエンパワメントについても、人々の交流と対話を創出するミーティングのスペースのイベントがみられなかったことから、北欧と比較して限定的であるといえる。

（指導教員　小泉公乃）